令和４年度　学校自己評価システムシート　（学校法人狭山ヶ丘学園　狭山ヶ丘高等学校付属中学校）

目指す学校像	２１世紀を担う知勇兼備のリーダーの育成を目指す

重　点　目　標	１　教科指導の徹底と学力向上 ２　基本的生活習慣の徹底 ３　対話を重視し個々の人格を尊重した指導

達成度		
	A	ほぼ達成(8 割以上)
	B	概ね達成(6 割以上)
	C	変化の兆し(4 割以上)
	D	不十分(4 割未満)

出席者		
	学校関係者	13 名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年　度　評　価（６月１０日現在）			実施日　令和５年７月１日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・生徒が主体的に学ぶことができる授業への取り組みを更に充実させ、全員の学力向上を目指す。ゼミ、放課後の小テスト等を定期的に行い、確実な基礎力を定着させる。 Google Workspaceを活用し、アンケート、フィードバック、ドキュメント編集、Jamboard作成を実施している。またプロジェクターを活用し、視覚に訴える授業も展開している。生徒たちは、真面目に授業やゼミ等に取り組んでいるが、徐々に学力の差が出来つつある。	・全国レベルの模擬試験を通じて学力の推移を見守る。 ・定期考査の結果やその変化に着目。 ・検定試験の結果を分析する。 ・Google Workspaceを使用している様子に着目。 ・担当教諭とのコミュニケーションに着目。	・教科担当者とクラス担任との共通理解を計り、きめ細かな指導を展開する。 ・学習の進め方指導や苦手教科の克服指導に工夫を凝らす。 ・学習方法の定着していない生徒に個別指導を行い、自学自習の習慣の確立を指導する。 ・実用英語技能検定の受験を促し、事前のガイダンスを徹底する。	・全国レベルの模擬試験の結果の推移。 ・定期考査の結果や準備に取り組む姿勢。 ・実用英語技能検定の合格者数の推移。 ・全校漢字一斉テストや英単語テスト結果の推移。	・全国レベルの模擬試験の結果、かなり実力を向上させる生徒が出てきている。GTZでSAゾーンの生徒の数が上昇している。 ・実用英語技能検定の上位の級への合格者数が増加している。 ・Google Workspaceの使用に順応している様子が見受けられる。	A	・高校に進学した後、更に意欲を持って勉学に向かうことができるように、３年間を使って指導していくこと。 ・Google Workspaceをより効果的に活用していくこと。	・小テストの積み重ねにより、勉強時間が必然的に確保でき、学力の向上という結果につながっていると感じる。 ・実用英語技能検定についても積極的に取り組んでいただいており、対策も一人ひとり丁寧であったと子どもからも聞く。ただ、子どもによって取り組みの熱量に差があるようにも感じるため、もっと積極的に受検することを促してもよい。 ・本校の高校をイメージするためにも高校を実際的に連想できる取り組みがあるとなおよい。
2	・全般的に素直な生徒が多いが、新型コロナウイルス蔓延の影響で生活リズムが乱れている生徒も散見される。 ・成長段階により、周囲に対する影響を十二分に考慮することができない場合がある。	・授業中や学校行事時の行動に着目する。 ・登下校時のマナーを確認する。	・「生活の記録」を活用し、一日の生活習慣をクラス担任が把握し、適切なアドバイスを与える。 ・授業中の生徒の言動や服装等に共通理解を持ち必要に応じて指導する。	・時と場所に応じて適切な言動が取れるかどうか。 ・挨拶の定着度。 ・リズム正しい生活が出来ているかどうか。	・学習の時間を確実に取れる生徒が増加している。 ・挨拶をしっかりと行う生徒が増えている。 ・公共の交通機関スクールバスでのマナーには課題が残る。	B	・声が小さく、自分の考えが相手に伝わらない生徒や、周囲への気配りが十分でない生徒が若干いるので、今後も指導していきたい。	・生活指導の中で厳しいと感じる側面もありつつ、「生活の記録」をはじめ、日々忙しい中、丁寧に見ていただいている。
3	・面談やＨＲ活動、総合的な学習の時間、道徳の時間等で生徒理解を深めている。 今年度も更に生徒理解を深め生徒指導に当たる。 ・黙想等の自己観察を通して、自己を省みる習慣を身につけさせる。	・ゼミや農作業への活動への取り組みに着目。 ・黙想後の発表内容に着目。 ・学校生活における言動に着目。	・黙想時のテーマに沿って、己を省みる時間に集中させる。 ・学習活動の意義を徹底して、人として成長させる機会として、行動、学習させる。 ・「キャリアパスポート」で各学期、年間を振り返り、担任とのコミュニケーションを通じて自己研鑽を積ませる。	・黙想後の発表内容に変化があるか。 ・あらゆる教育活動に前向きに取り組んでいるか。	・テーマに沿って黙想することができるようになった。 ・生徒によっては、他者への理解が深い黙想後の発表もあった。 ・諸行事等への取り組みで指導を受ける生徒も散見された。	B	・それぞれの教育活動についての意義を理解させ、積極的に参加できるよう指導する。 ・新聞、書籍等を教材に人に対する理解を深めるよう指導していく。 ・学年を超えたグループでの議論の機会を増やす。	・学年の垣根を超えた取り組みに関しては継続的に実践していただきたい。同級生でも他の学年の生徒と触れ合っている姿を見ることで別の側面を見ることができたようだ。